

- 英語のコミュニケーションに必要な「資質・能力」を育てる学習過程において、育成につながる手立てを取っているのかどうか振り返ってみましょう。
- 生徒の「資質・能力」を育てるために、よりよい授業づくりを目指し、授業改善の手立てを考えてみましょう。

**授業の
質的改善の手順**

目的設定されたコミュニケーションの場面・状況等を理解する

目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる

目的達成のための具体的なコミュニケーションを行う

振り返り学習の内容をまとめる

1 生徒の実態を学習過程に沿って見てみましょう。「私の生徒は…」
クラスの多くの生徒ができています。→(○)
クラスの半分程度の生徒ができています。→(△)
クラスのほとんどの生徒ができていない。→(×)

日頃の生徒の様子をイメージしながら気軽にチェック!

テストの結果
授業の録画記録
ワークシート
作品
授業中の発話

学習指導過程 1 単元ゴールの把握

- () 単元の学習を通して、英語で何ができるようになるのか理解している。
- () 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習活動をするのか見通しをもっている。
- () 現在何ができて、何ができていないか自覚している。
例) 「発音には自信がある」「明日の予定の言い方は知っている」「原稿を見ないで言うのは難しそう」「英文の語順がよく分からない」「40秒英語でやり取りをするなんて何を話していいの分からない」など
- () 単元の学習を通して、英語で何ができるようになりたいのか目標をもっている。
- () 単元のスタートに単元ゴールの学習課題について、具体的に理解している。
例) コミュニケーションの設定場面 コミュニケーションの相手 英語で何をするのか など

学習指導過程 2 単元ゴールの達成に向けた学習の見通し

- () 学習活動に見通しをもち、粘り強く取り組んでいる。
- () 間違いを恐れず、積極的に英語を使って学習課題の解決に取り組んでいる。
- () 語彙・表現や文法をコミュニケーションの場面と関連付けて習得している。
- () Teacher Talkや教材、また、クラスメートの発話や作品など様々なものから語彙・表現や文法を学んだり、学習内容に関する情報を得たりしている。
- () 学習した内容や経験、また、新たに得られた知識・技能を積極的に活用しながら、コミュニケーションの相手や状況に応じて自分の意見や考えを発信している。
- () ペアやグループで協力して学習活動に取り組み、学習課題を解決している。
- () 辞書やインターネット等を活用し、疑問点の解決やより良い作品づくりに取り組んでいる。
- () 自分の学習到達状況を振り返り、見だした成果と課題を基に改善に取り組んでいる。
- () 4技能5領域においてコミュニケーションを図ることができる力をバランスよく身に付けている。

学習指導過程 3 単元ゴール達成に向けた理解や練習

- () 知識や技能を駆使し、コミュニケーションの場面や相手に応じて、課題を解決しようとしている。
- () 目的や場面、状況等に応じて、適切な言語を活用したり、構成を工夫したりしている。
- () クラスメートと協力して課題を解決しようとしている。
- () 言語活動の途中や最後に、自分の発話や作品を振り返り、自分で調べたり、再考・修正したりして、よりよいものになろうとしている。
- () クラスメートのパフォーマンスや作品から学び、取り入れようとしている。
- () ゴールの達成度について自覚している。

学習指導過程 4 単元ゴール達成のための言語活動

- () 学習を通して、何がどれくらい分かり、できるようになったかについて自覚している。
- () 学習した内容を人に説明できる。
- () 学習を通して身に付けた知識及び技能を活用して、別の学習課題を解決できる。
- () 次の学習への見通しや意欲をもっている。

2 自分の授業づくりを振り返りましょう。「生徒の資質・能力を育てるために、私は…」
できている。→(○)
あまりできていない。→(△)
ほとんどできていない。→(×)

- () ア 単元ゴールにおけるコミュニケーションの目的や場面、状況等を生徒に明確に示し、学習の見通しを持たせられるよう、具体的に学習指導計画を立てている。
- () イ 単元のスタートに、単元ゴールの活動の目的や場面等について具体的に生徒に示している。
例) 「ホームステイ先の家族に写真や物を見せながら、自分のことや、日本の生活などについて紹介する」「日本を初めて訪れ、〇〇校にALTとしてやって来る△△先生に歓迎の気持ちを伝えるためにどんなことができるのか話し合う」「ロボットと人間の共存について書かれた記事を読み、自分の考えをまとめて発表する」 など
- () ウ 単元ゴールの達成に向けた学習を通して、生徒にどのような力を付けたいのか具体的な目標をもっている。また、それを生徒に示している。
例) 「1分程度のスピーチを聞いて理解する力」「〇〇ついでの手紙を読んで理解する力」「〇〇についてALTとやり取りする力」「メモを見ながら発表する力」「〇〇について8文程度のエッセイを書く力」 など
- () エ 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習を行うか生徒に示している。
- () オ 生徒が現在の自分の力を把握し、単元ゴールの達成に向けて、どのような学習が必要か考えることができるような機会を設けている。
- () カ 単元ゴールでどのようなパフォーマンスを行いたいのか、生徒が目標を立てる機会を設けている。
- () キ 生徒が単元ゴールに興味をもち、達成する必然性を見いだしたり、取り組みたいと感じたりすることができるよう、生徒の実態に応じて内容や提示の仕方などを工夫している。

- () ア 学習活動の目的や内容、ゴールの姿を分かりやすく示している。
- () イ 安心して学習に取り組むことができる環境づくりをしている。
- () ウ 学習内容に興味・関心をもちさせるための工夫をしている。
- () エ 語彙・表現や文法など基礎的・基本的な知識を、コミュニケーションの使用場面と関連付けて習得することができる工夫をしている。
- () オ 生徒が様々な場面で質の良いインプットを得ることができるよう、Teacher Talkや教材の語彙レベルや量、内容、提示の仕方などは、生徒の実態に応じたものにし、思考を促したり、気付きを起こさせる発問を行ったりしている。
- () カ 学習した内容を、異なる場面設定の中で活用することを通して、繰り返し学ぶことができるような言語活動を設けている。
- () キ 生徒の実態（語彙レベル、学習スタイル、学習環境、興味・関心など）に応じた様々な言語活動を通して、語彙・表現や文法などの知識や技能の習得が効果的に行われるようにしている。
- () ク コミュニケーションの必要性がある学習課題を設定し、相手や目的、状況を明確に示している。
- () ケ 生徒が自分で調べたり、人と協力して学習したりすることを通して、学びを広げ高めるとができる場を設けたり、環境を整えたりしている。
- () コ 生徒が自分の学習到達状況や変容を具体的に自覚できるよう工夫している。
- () サ 生徒の学習到達度を見取り、適切なフィードバックを行っている。
- () シ 自己評価や人との対話、作品の共有、フィードバックを通して、自分の考えを整理・修正したり、新しい学びを得たりすることができる機会を設けている。
- () ス 技能統合型の言語活動を設定し、4技能5領域にわたってコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成できるよう工夫している。

- () ア 間違いを恐れず、英語でコミュニケーションを図ることを楽しむことができる雰囲気作りを行ったり、十分な時間を確保したりしている。
- () イ コミュニケーションにおいて意識する点について、ルーブリックやリストを活用して確認させたり、モデルを提示して生徒に考えさせたり気付けさせたりする場を設けている。
- () ウ クラスメートと協力して学習課題を解決したり、学び合ったりする活動を設けている。
- () エ クラスメートと互いにパフォーマンスや作品を見せ合い、助言し合う場を設けている。
- () オ 自己の振り返りや、教師やクラスメートからのフィードバックを生かし、自分の考えを整理したり修正したりできる場を設けている。
- () カ 生徒が自分の学習到達状況や変容を具体的に自覚できるよう工夫している。

- () ア 学習活動の内容や個人の成長を振り返る機会を設けている。
- () イ 学んだことをペアやグループで確認したり、整理したりする場を設けている。
- () ウ 学んだ事を実際に使うことを通して、学習到達度を自覚する場を設けている。
- () エ 今回の学習を通して身に付けたことを、次の学習につなげさせる手立てを取っている。

3 改善につながる手立てを考えてみましょう。「授業をよりよい学びの場にするために、私は…」
アイデアに詰まったら…「手立てシート」へGO!

「手立てシート」
どんな手立てが考えられるのか

ア→主-D
イ→主-D・E
ウ→主-D・H・I・J
エ→主-H・I・J
オ→主-K、対-B、深-B・C
カ→主-I・J、深-C
キ→主-C・E・F・G・H・I・J・K、対-A、深-A

ア→主-L・R
イ→主-A・B・S・U
ウ→主-B・M・S・T、対-C・D、深-D・E・F・I
エ→主-A・L・M・N・O、対-C・D、深-I
オ→主-N・T、対-C・D、深-D・F
カ→主-M・N・O・T、対-C・E、深-I
キ→主-O・T・V、対-C、深-F

ク→主-A・B・C・M・N、対-E・K、深-E・F・H・G
ケ→主-N・O、対-E、深-E・F・G
コ→主-P・V・W・X、対-F・G、深-J
サ→主-V、対-G、深-F
シ→主-P・X、対-F・G・L
ス→主-N、対-E、深-E・F・G・H

ア→主-B・C・T
イ→主-Q、対-H・I・K、深-J
ウ→対-J・K
エ→主-W、対-I・L、深-W
オ→主-X、対-I、深-J・G
カ→主-V・W・X、対-I、深-J

ア→主-Y・Z、対-M、深-J
イ→主-Z、対-N・O、深-I
ウ→対-P、深-K
エ→主-Y、対-P、深-L